

西武鉄道株式会社からの鉄道の旅客運賃の
上限変更認可申請に関する審議（３回目）

１．日 時

令和７年４月１７日（木） １０：３０～１１：５０

２．場 所

国土交通省 ４号館３階 運輸審議会審議室

３．出席者

<委 員>

堀川義弘（会長）、白石敏男（会長代理）

二村真理子、三浦大介、大石美奈子、吉田可保里

<国土交通省>

鉄道局：尾崎旅客輸送業務監理室長 ほか

事案処理職員：運輸審議会審理室 波々伯部、高崎、藤澤、日下、増田、藤間

４．議事概要

- 鉄道局から、西武鉄道株式会社（以下「西武鉄道」という。）からの鉄道の旅客運賃の上限変更認可申請に係る前回までの審議における委員からの質問事項、パブリックコメント結果について、説明があった。
- 運輸審議会委員からは、
 - ① 女性採用促進に向けた施策について、休暇など諸制度の制定を推進しているとのことだが、具体的な取り組み状況は。
 - ② ９０００系車両は全て廃車にしたのか。また、平均車齢はどれ程か。
 - ③ 新宿線の有料着席サービスの刷新とは具体的にはどういうことか。
 - ④ ワンマン運転は、今後エリアを拡大する時には監督官庁とも協議するとあるが、現在ワンマン運転を導入しているのはどこか。
 - ⑤ 駅構内店舗は西武鉄道直営だが、直営関連事業の収入原価はどのように取扱うのか。等の質問があった。

○ これに対し、鉄道局からは、

- ① 休暇制度については女性だけでなく男性も含めて社員全体で推進している。時差出勤や鉄道事業者特有の泊り勤務があることから、小さな子供がいる社員は泊り勤務や土日勤務を免除することを推進している。
- ② 現状すべて廃車しているか分からないが、9000系は古いため、適時廃車の手続きを進めている。西武鉄道の車両においては27年～35年程度の車齢が最も多くなっている。
- ③ 現在はレッドアローの観光列車のイメージが強いと思うが、新宿線は通勤客も多いので、それに対応できる車両にすることで利便性を図る。
- ④ 現在、山口線は導入している。他にも多摩湖線、池袋線や西武秩父線などの支線系では区間にもよるが導入が進んでいる。
- ⑤ 店舗の営業は西武鉄道自身が行っているが、構内店舗の売り上げは鉄道部門の収入ではないため、算定要領上の収入に計上されていない。

等の回答があった。

(注) 事案処理職員とは、運輸審議会一般規則第7条の2の規定に基づき、運輸審議会の指名を受け、指定された事案を処理する国土交通省職員のことである。